

市町村未来づくり交付金自己評価調書

1 事業群評価調書

団体名：向日市

重点目標	雨水浸水や地震などへの防災対策、消防・救急体制の強化など、市民の生命と財産を守り、安心・安全のまちを築く。 また、貴重な財産である緑豊かな西ノ岡丘陵などの自然環境を守り、豊かで潤いのある住みよい環境を整える。		
事業群		構成事業名	
「安心と安全のまちづくり」		西田中瀬ポケットパーク整備事業	
		公共施設におけるAED救急セット整備事業	
事業群全体による 成果の概要	緑の基本計画の中で、市街地における緑の創出が必要な地区として指定されている「緑化重点地区」内にポケットパークを整備することにより、市民の身近な緑地の確保が図れた。 また、市内各所におけるAEDの設置場所を順次増やすとともに、その使い方を含め、救急蘇生法に関する啓発活動を行っていくことにより、突然心停止を起こした傷病者への対応に備えるとともに、市民の相互救命への意識を高めていくことにつながった。 本年度の成果について、客観的な数値により評価できる場合は下欄に記入すること。また、複数の指標がある場合は適宜欄を追加すること。		
	成果指標		実績値
	指標式等		

(記載要領)

- 1 重点目標、事業群ごとに本様式を作成し、評価するものであること。
- 2 成果の概要については、できる限り客観的な数値によること。

2 個別事業評価調書

団体名: 向日市

事業名		西田中瀬ポケットパーク整備事業					
事業の概要		府道向日町停車場線の沿道用地を買収し、ポケットパークとして整備した。 ・用地購入面積 = 17.8平方メートル ・境界ブロック、車止め、スツール、植栽柵等の構造物工事 ・低木、地比類の植栽工事 ・緑化フェンス、メッシュフェンスの設置工事舗装 ・アスファルトの舗装工事					
	事業期間	平成20年度					
	総事業費	4,052千円	本年度事業費	4,052千円	交付金交付額	2,300千円	
事業評価	事業の必要性	本事業箇所は、既成市街地で特に緑が少ない地区であり、緑の拡充が望まれていることから「緑化重点地区」に指定し整備を図り、緑あふれる快適なまちづくりを進めていく必要がある。					
	事業の有効性	阪急東向日駅からJR向日町駅間にポケットパークを整備し、多くの市民が利用する緑が配置された休憩スペースや快適に過ごせる空間が確保された。					
	事業の効率性	緑の計画に基づき、緑化重点地区内の土地を有効利用し、ポケットパークとして整備をすることにより緑や空間などを活かした、まちづくりを進めるのに効果的である。					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果					
		2 住民の自治意識を高める成果	沿道に位置する公園やその他公共施設について、接道部での緑化を充実するほか、道路の景観の保全、沿道の事業所や市民の緑化意識の向上など、一連の緑化対策が講じられる。				
3 リーディング・モデル成果							
4 広域的波及成果		府道向日町停車場線を利用し、竹の径や大原野方面への観光客も増えており、ポケットパークの利用活用に繋がる。					
	5 行財政改革に資する成果						
	6 その他の成果	本事業箇所は商店街が隣接した、駅間をつなぐ主要幹線道路として多くの方に利用され、歩行者や車の通行量が多い場所であり、道路の沿道に緑を配したスペースを設置することにより、近隣の住民や通行者の休憩スペースとして、また、住宅が密集した当地域では、小スペースではあるが避難場所として機能する場所として成果がある。					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名： 向日市

事業名		公共施設におけるAED救急セット整備事業				
事業の概要	<p>平成20年度中に、市内公共施設10か所にAEDを設置するとともに、全職員を対象として、向日消防署の協力を得て、心肺蘇生法(AED操作方法を含む)の研修を実施した。</p> <p><設置場所> 地区公民館5館、コミュニティセンター2館、3中学校 <職員研修> 平成21年1月16日・30日 合計44名 <その他> 「乙訓救急フェア」への参加呼びかけなど、市民啓発を積極的に行った。</p>					
	事業期間	平成19年度～平成21年度				
	総事業費	9,000千円	本年度事業費	3,804千円	交付金交付額	2,100千円
事業評価	事業の必要性	病気や怪我による突然の心停止は、場所や時期を問わず、誰にでも起こりうる可能性がある。突然心停止を起こした傷病者を救命するためには、迅速な119番通報 迅速なAEDによる除細動、最後に専門家による二次救命処置と言われている。その体制整備の一環として、不特定多数の利用者がある公共施設において、AEDを設置することは有用である。				
	事業の有効性	公共施設においてAEDを整備し、その使い方を含め、救急蘇生法に関する啓発活動を行っていくことにより市民の救急への意識を高め、市民相互による救命活動を支援することに繋がっていくものと考えられる。				
	事業の効率性	乙訓地域では、市民に対する啓発活動(救急フェア等)や消防による講習会などが計画的に実施されており、それらと並行して設備整備を行っていくことにより、突然の心停止を起こした傷病者の救命率が向上するものと思われる。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果 市内各所におけるAEDの設置場所を順次増やすとともに、その使い方を含め、救急蘇生法に関する啓発活動を行っていくことにより、市民の相互救命への意識を高めていくものと考えられる。				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果						
6 その他の成果						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

市町村未来づくり交付金自己評価調書

1 事業群評価調書

団体名：向日市

重点目標	<p>児童・生徒の学力向上はもとより、安全で快適な教育環境の整備を進め、子どもたちが元気に、のびのびと心の豊かさを育むまちを築く。 また、市民が個性と能力を発揮できる社会、人と人のふれあいを深め、明るく住みよい地域社会づくりに努めるとともに、本市の貴重な財産である史跡長岡宮跡などの文化財の整備と活用を図る。</p>		
事業群		構成事業名	
「子育てと教育のまちづくり」		第4 向陽小学校特別支援教室設置事業	
		小中学校コンピュータ室パソコン整備事業	
		史跡長岡宮跡朝堂院保全整備事業	
事業群全体による 成果の概要	<p>パソコンの更新や特別支援教室の改修など教育環境の整備充実を図ることにより、個々の教育的ニーズに応じた教育の場を提供するとともに、児童生徒の主体的な学習活動を推進し、豊かな感性を育成することができた。 また、市内史跡「長岡宮跡」の保全整備を進めることにより、貴重な文化財を保護し、有効活用を図ることができた。</p> <p>本年度の成果について、客観的な数値により評価できる場合は下欄に記入すること。また、複数の指標がある場合は適宜欄を追加すること。</p>		
	成果指標		実績値
	指標式等		

(記載要領)

- 1 重点目標、事業群ごとに本様式を作成し、評価するものであること。
- 2 成果の概要については、できる限り客観的な数値によること。

2 個別事業評価調書

団体名: 向日市

事業名		第4向陽小学校特別支援教室設置事業				
事業の概要	第4向陽小学校に紫外線遮蔽設備を備えた特別支援教室を新たに設置し、既存の特別支援教室を普通教室に改修整備を行う。					
	事業期間	平成20年度				
	総事業費	14,101千円	本年度事業費	14,101千円	交付金交付額	7,800千円
事業評価	事業の必要性	障害のある児童生徒一人ひとりの障害の種類、程度及び特性に応じた教育の場を提供し、障害のある児童生徒の教育環境の整備を図る必要がある。				
	事業の有効性	学校の施設設備を整備し、障害のある児童生徒の教育環境の改善を図ることにより、個々の教育的ニーズに応じた心豊かでたくましく生きる力を培う特別支援教育を推進することができる。				
	事業の効率性	既存の歴史資料室を改修することで、効率的に特別支援教室を設置できた。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果						
6 その他の成果 障害のある児童生徒一人ひとりの障害の種類、程度及び特性に応じた教育の場を提供することにより、障害のある児童生徒が支障なく学校生活を送ることができるようにする。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名：向日市

事業名		小中学校コンピュータ室パソコン整備事業			
事業の概要		平成9年度から順次、市内小中学校のコンピュータ室パソコンの整備を行い、各教科での活用を図ってきたが、それぞれ導入後数年が経過したため、パソコンを効果的に活用した授業の対応ができるように、教育用パソコンネットワークシステムの更新整備を行った。			
		事業期間	平成19年度～平成25年度		
		総事業費	52,421千円	本年度事業費	7,715千円
事業評価	事業の必要性	平成17年度整備の京都みらいネット(光回線)を有効に活用し、また、パソコンを効果的に活用した授業に対応できるよう更新整備が必要である。			
	事業の有効性	パソコン等の情報機器及びインターネット等を活用し、児童生徒の情報活用能力を育成した。			
	事業の効率性				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果			
		2 住民の自治意識を高める成果			
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果					
5 行財政改革に資する成果					
		6 その他の成果 児童生徒が、パソコンやインターネット等の情報手段に積極的かつ主体的に関わるようになり、「情報の収集」「情報の編集・加工」等の情報活用能力の向上に繋がった。			

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調査

団体名:向日市

事業名		史跡長岡宮跡朝堂院保全整備事業				
事業の概要	<p>史跡長岡宮跡の朝堂院西第四堂・南門・南面回廊地区について、遺構明示や便益施設の設置等、遺構の環境整備を図るもので、実施にあたっては、史跡長岡宮跡朝堂院西第四堂保全整備検討委員会設置要綱を策定し、委員会を組織し事業に反映した。</p> <p>なお、本年度は、委員会等の指導のもと、施設設置計画地の埋蔵文化財調査を実施し、地下遺構の有無を確認するとともに遺構復原のための資料を得た。</p> <p>埋蔵文化財発掘調査及び前年度の測量成果に基づき、遺構の保護造成、雨水排水など施設の設置、朝堂院南面回廊及び楼閣(翔鸞楼相当施設)の遺構復原表示等のための環境実施設計を行った。</p> <p>そして、本実施設計に基づき、遺構保護のための盛土などの基盤整備工や雨水排水工、朝堂院南面回廊跡や楼閣跡(翔鸞楼相当施設)遺構表示等の環境整備工事を行った。</p>					
	事業期間	平成19年度～平成21年度				
	総事業費	76,819千円	本年度事業費	31,082千円	交付金交付額	7,768千円
事業評価	事業の必要性	事業地は、平成4年に史跡に追加指定を受けた後、平成14、18年にも追加指定を受けている。これらの地域の公有化については、平成5年度から継続的に実施し、平成18年度で一定の買上が完了した。なお、当地は、阪急京都線西向日駅前北30mに位置し、市街地の中心部にあるため、史跡指定後、保護盛土等を実施してきたが、十分な活用が図れていなかった。このため、史跡を活用した保護施策を望む意見が数多く寄せられるなど、早急に整備を行う必要に迫られていた。				
	事業の有効性	史跡を保護、整備し広く市民等に供用することにより、貴重な歴史遺産を守り継承することを第一義的に考えると同時に、校外学習や生涯学習の場、観光資源、市民の憩いの場、市街地の中の緑地帯、災害時の緊急避難地や緩衝帯としての役割など多方面からの活用が期待できる。				
	事業の効率性	多くの市民が、多目的に有効に史跡を利用することにより、さらに長岡京への理解が深まり、文化財愛護の精神と郷土愛を育むことができる。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 本件事業地(史跡指定地)の公有化に際して、京都府から約10%の補助金を得ている。本件事業の実施に対して、京都府は常に文化庁等関係機関と連絡を取り指導と調整を図られ、整備検討委員会においてもオブザーバーとして建設的な意見を頂いた。このように、史跡長岡宮跡が府民の貴重な歴史遺産であることが位置づけすることができた。				
		2 住民の自治意識を高める成果				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果 京都府が進める施策の基本方向「豊かな自然と磨き上げた文化が織りなす交流圏」において、歴史文化の保全・継承と地域文化の振興がある。長岡京跡等の都城遺跡などの歴史的文化遺産の保全・継承を図るとともに、本遺産を活用した賑わいのある地域づくりの促進に役立つことができた。						
5 行財政改革に資する成果						
6 その他の成果 本件事業地は、阪急西向日駅前北方約30mの市街地の中に所在する。昭和57年度の埋蔵文化財発掘調査以後約25年にわたり史跡指定及び同地の公有化事業を行い、一団の土地とすることができた。多様な市民ニーズに対応した史跡公園として広く市民に供用することにより、文化財保護意識の普及を図り、郷土愛を育むとともに市民の文化的生活の向上に資することができた。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

市町村未来づくり交付金自己評価調書

1 事業群評価調書

団体名：向日市

重点目標	商業、工業、農業及び観光の振興を図るとともに、市内幹線道路の整備や生活道路の安全性、快適性の向上はもとより、北部新市街地と連動した中心市街地の整備による地域経済の活性化を図り、たくましく、未来を拓く賑わいと活力のあるまちを築く。		
	事業群	構成事業名	
「未来と活力のあるまちづくり」		「竹の径」保全整備事業	
事業群全体による 成果の概要	<p>竹林浴の地として、地域住民や観光客に親しまれており、また多くのウォークイベントが実施されるなど、本市を代表する観光資源である「竹の径」の、老朽化による破損が激しい箇所を改修することにより、美しい景観の保全を図るとともに、魅力ある観光地としての整備が図れた。</p> <p>本年度の成果について、客観的な数値により評価できる場合は下欄に記入すること。また、複数の指標がある場合は適宜欄を追加すること。</p>		
	成果指標		実績値
	指標式等		

(記載要領)

- 重点目標、事業群ごとに本様式を作成し、評価するものであること。
- 成果の概要については、できる限り客観的な数値によること。

2 個別事業評価調書

団体名： 向日市

事業名		「竹の径」保全整備事業			
事業の概要		「竹の径」は、竹枝を束ねた「竹穂垣」や古墳をイメージした「古墳垣」などオリジナルな竹垣を含め、6種類の竹垣が整然と連なる総延長1.8kmにおよぶ竹林道である。整備以来、多くの観光客が訪れるなど本市の代表的な観光スポットとして定着してきているが、整備後5年以上が経過し老朽化が激しいことから、「竹の径」の景観保全を図るため、保全整備工事を実施した。			
		事業期間	平成20年度		
		総事業費	1,995千円	本年度事業費	1,995千円
事業評価	事業の必要性	「竹の径」は本市の代表的な観光スポットとして、多くの市民や観光客に親しまれているが、竹垣であることから老朽化による傷みが激しく、継続的な保全整備工事を実施し、美しい景観を維持していく必要がある。			
	事業の有効性	本事業を実施することにより、「竹の径」だけでなく、他の観光資源への集客増や商業振興など地域の活性化につながる期待できる。			
	事業の効率性	本事業は、観光振興につながるほか、放置竹林対策や不法投棄予防などの環境整備事業としても効果的である。			
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 平成20年11月に「竹の径」が京都府の景観資産に登録された。			
		2 住民の自治意識を高める成果 貴重な観光資源として、竹垣や竹林の美しい景観を維持していこうという意識が高まっており、周辺竹林への不法投棄も減っている。また、「竹の径」をコースに取り入れたウォークイベントなど民間団体等の企画運営も年々増えており、自治意識の高揚につながっている。			
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果 「竹の径」から周辺の洛西竹林公園や長岡京市、大山崎町を訪れる観光客も増えており、広域的な観光振興につながっている。					
5 行財政改革に資する成果					
6 その他の成果 平成13年度に国土交通省「手づくり郷土賞」を受賞し、平成14年度には読売新聞社「全国遊歩100選」、さらに平成16年度に日本ウォーキング協会「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選定された。					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

市町村未来づくり交付金自己評価調書

1 事業群評価調書

団体名：向日市

重点目標	行政改革を押し進め、スリムでスピードのある市役所を目指すとともに、市民の自主的な活動を促進し、協働のまちを築く。		
	事業群	構成事業名	
	「信頼と改革のまちづくり」	がんばる地域応援事業	
		(仮称)市民協働センター設置事業	
事業群全体による 成果の概要	<p>市内の各自治会等が主体となって自主的な地域活動を通して、独自で特色ある地域活動のために行う事業を支援することにより、地域の活性化につながった。 また、市民協働を推進するための拠点となる「市民協働センター」を設置し、市民団体の活動を支援することにより、活動の活発化多様化が図れた。</p> <p>本年度の成果について、客観的な数値により評価できる場合は下欄に記入すること。また、複数の指標がある場合は適宜欄を追加すること。</p>		
	成果指標		実績値
	指標式等		

(記載要領)

- 重点目標、事業群ごとに本様式を作成し、評価するものであること。
- 成果の概要については、できる限り客観的な数値によること。

2 個別事業評価調書

団体名： 向日市

事業名		がんばる地域応援事業			
事業の概要		<p>がんばる地域応援事業は、新たに自治会などが主体となって行う自主的な活動に対して助成を行うものである。地域での問題解決など様々な市民活動を支援することで、協働の取組として多くの市民が参加し、地域活動がさらに活発に行われることを目的としている。本年度は、市内自治会が実施する、電動自転車による環境に配慮した地域安全見守り配送事業に対して、事業補助を行う。</p>			
		事業期間	平成20年度		
		総事業費	108千円	本年度事業費	108千円
事業評価	事業の必要性	<p>「向日市市民協働推進条例」を平成20年4月に施行し、その取り組みを進めている。条例には、市民力の育成として、「第9条 市は、市民協働及びまちづくりに積極的に取り組む市民及び市民公益活動団体の育成に努めるものとする。」とし、その具現化を図るものとして、このがんばる地域応援事業制度を創設した。</p>			
	事業の有効性	<p>地域住民に対して防犯意識の向上を図るとともに、犯罪の起こりにくい地域づくりに寄与している。</p>			
	事業の効率性	<p>交付申請時期を、第1回目の6月と第2回目の11月の複数回設定することで、制度の周知を図るとともに、申請者の利用しやすい環境作りを図ると同時に、事務処理の効率化を図った。</p>			
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果			
		2 住民の自治意識を高める成果			
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果					
5 行財政改革に資する成果					
6 その他の成果 <p>近隣関係の希薄化や町内会、自治会の組織率の低下が課題になっている中で、電動自転車からの声かけ等「顔のみえる」パトロールを行うことにより、住民同士のつながりを育むと同時に、青少年の健全育成にも寄与している。</p>					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名： 向日市

事業名		(仮称)市民協働センター設置事業			
事業の概要		市民協働センターを設置することにより、公益活動を担う人材や団体の発掘や育成、支援を推進し、豊かで活力ある市民主体の地域社会を目指す。			
		事業期間	平成20年度		
		総事業費	1,753千円	本年度事業費	1,753千円
事業評価	事業の必要性	地方分権、少子高齢化などの進展や、地域コミュニティの希薄化などによる社会情勢の急速な変化及び市民ニーズの多様化・複雑化、財政状況の悪化等により、行政のみ或いは市民や地域のみでは解決困難な課題が増加してきている。このような中、新しい公共の担い手として市民公益活動団体の重要性が増すとともに、市民協働のまちづくりが求められている。			
	事業の有効性	当該センターの取組により、市民団体の増加や活発化・多様化を図り市民協働を推進することにより、行政単独では困難な事業の実施や、協働による相乗効果により効率化やサービス向上が図れた。			
	事業の効率性	新設ではなく、既存の施設を改修することにより、事業費の節減を図った。			
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 京都府からの交付金を積極的に活用することにより、市町村だけでは達成することができない事業成果を上げることができた。			
		2 住民の自治意識を高める成果 市民協働センターの設置により、市民の自主的なまちづくり活動の拠点ができるとともに、市民と行政のパートナーシップの強化・推進を図ることができた。			
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果					
5 行財政改革に資する成果					
		6 その他の成果			

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

市町村未来づくり交付金自己評価調書

1 事業群評価調書

団体名：向日市

重点目標	地元企業等における雇用の維持のための対策。 自立的で持続可能な地域経済の確立のための対策。		
	事業群	構成事業名	
「緊急雇用・生活支援対策」		向日市立図書館玄関ホール壁面タイル改修工事	
		向日市民会館排煙建具改修工事	
		向日市観光史跡案内板（長岡宮跡春宮坊）修繕	
事業群全体による 成果の概要	<p>地元企業への追加発注により、地元企業における雇用の維持につながった。 また、観光史跡案内板を更新し、市内の史跡めぐりのポイントとして整備することにより、長岡宮跡を活用した観光振興が図れた。</p> <p>本年度の成果について、客観的な数値により評価できる場合は下欄に記入すること。また、複数の指標がある場合は適宜欄を追加すること。</p>		
	成果指標		実績値
	指標式等		

（記載要領）

- 重点目標、事業群ごとに本様式を作成し、評価するものであること。
- 成果の概要については、できる限り客観的な数値によること。

2 個別事業評価調書

団体名： 向日市

事業名		向日市立図書館玄関ホール壁面タイル改修工事			
事業の概要		向日市立図書館の玄関ホール内において、壁面タイルに経年変化によるとみられる接着不良が発見されたことに伴う改修工事を実施したものである。 工事概要は、接着不良が発見された、南側壁面及び西南側壁面のタイルを剥がし、壁面状況を確認、補強した上で、新たなタイル等を壁面に接着したものである。 なお、地元業者への追加発注とし、地元企業の雇用維持の対策とする。			
		事業期間	平成20年度		
		総事業費	2,129千円	本年度事業費	2,129千円
事業評価	事業の必要性	向日市立図書館の玄関ホール内において、壁面タイルに経年変化によるとみられる接着不良が発見されたことに伴う改修工事であり、図書館に入館するには必ず通る場所であり、危険防止の観点から必要かつ緊急性の高い工事であった。			
	事業の有効性	改修工事を行うことで、タイルの滑落による事故の未然防止ならびに外観損傷による美観を損ねる事態の未然防止が図られた。			
	事業の効率性	改修工事を行う際、壁面にタイルだけでなく、併せて掲示板を設置し壁面の有効活用も図った。			
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果			
		2 住民の自治意識を高める成果			
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果					
5 行財政改革に資する成果					
6 その他の成果		図書館利用者が必ず通る玄関ホールの壁面タイルに異常が発見されたことによる改修工事であり、必要性・重要性・緊急性のいずれも高かった。この工事を実施したことにより、タイルの滑落による事故の未然防止ならびに外観損傷による美観を損ねる事態の未然防止ができた。 また、地元企業へ発注することにより、地元における雇用の維持のための対策となった。			

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名： 向日市

事業名		向日市民会館排煙建具改修工事			
事業の概要		開館以来37年が経過し、施設・設備の老朽化が進み、市民が利用するための公共の建物として維持補修が必要な状況となっている。本年度は、ホールホワイエ他の排煙建具の改修を行う。 なお、地元業者への追加発注とし、地元企業の雇用維持の対策とする。			
		事業期間	平成20年度		
		総事業費	5,512千円	本年度事業費	5,512千円
事業評価	事業の必要性	開館以来37年が経過し、施設・設備の老朽化が進み、市民が利用するための公共の建物として維持補修が必要な状況となっている。			
	事業の有効性	消防面での設備を整えることで、安全性がさらに確保される。			
	事業の効率性				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果			
		2 住民の自治意識を高める成果			
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果					
5 行財政改革に資する成果					
6 その他の成果 消防面での設備を備えることで安全性が増し、今後も様々な市民活動の場として当館施設を提供できる。 また、地元企業へ発注することにより、地元における雇用の維持のための対策となった。					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名： 向日市

事業名		向日市観光史跡案内板(長岡宮跡 春宮坊)修繕					
事業の概要	<p>長岡京跡は、東西4.3km南北5.3kmの規模(22.79km²)を有し、3市(京都市、向日市、長岡京市)1町(大山崎町)に広がる広域遺跡である。このうち、本市に占める面積は4.512km²であり、割合は少ないものの宮域全域が位置する極めて重要な地域となっている。これらの文化財として重要な地域を「長岡京跡」として史跡指定を受け、歴史的文化遺産の保全継承を図るとともに、本市独自の観光資源としての活用を進めている。</p> <p>本案内板は、平成11年7月に「鶏冠井かしの木公園」に設置の観光史跡案内板で、「長岡京跡春宮坊」の概要とその地域の発掘調査の内容を記載し、長岡京跡についての広報普及を図ったものである。しかし、整備後数年が経過し、老朽化による破損等が見られるため、その更新整備を行う。</p>						
	事業期間	平成20年度					
	総事業費	598千円	本年度事業費	598千円	交付金交付額	232千円	
事業評価	事業の必要性	観光史跡案内板の整備後数年が経過し、老朽化による破損等が見られるため、その更新整備を行う。					
	事業の有効性	市内の史跡めぐりのポイントとして整備することにより、長岡宮跡を活用した観光振興が図れる。					
	事業の効率性	長岡京跡についての広報普及を図ることにより、さらに長岡京への理解が深まり、文化財愛護の精神と郷土愛が育むことができる。					
	具体的な成果	<p>1 府と市町村等との連携に資する成果</p> <p>日本古代の首都である都城遺跡は、奈良や京都など数か所に限られた極めて貴重な遺跡である。この歴史的・文化遺産を案内板等により特徴のある整備を実施することにより、市・府内外に対して、本市の独自性を強調する機会ととらえることにより、市・府民の郷土愛を育むとともに観光面などの集客力を高めることができた。</p>					
		2 住民の自治意識を高める成果					
		3 リーディング・モデル成果					
<p>4 広域的波及成果</p> <p>施策の基本方向「豊かな自然と磨き上げた文化が織りなす交流圏」において、歴史文化の保全・継承と地域文化の振興がある。長岡京跡等の都城遺跡などの歴史的・文化遺産の保全・継承を図るとともに、本遺産を活用した賑わいのある地域づくりの促進に役立つことができた。</p>							
5 行財政改革に資する成果							
<p>6 その他の成果</p> <p>桓武天皇の皇太子である安殿親王(あてしんのう:後の平城天皇)の住まいである春宮坊(とうぐうぼう)の概要とその地域の発掘調査の内容を記載した観光史跡案内板を整備し広報普及することにより、長岡京跡への関心を高め観光振興に寄与すると共に、地域住民への文化財保護の意識を高め、郷土愛を育むとともに市民の文化的・生活の向上に資することができた。</p>							

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。